

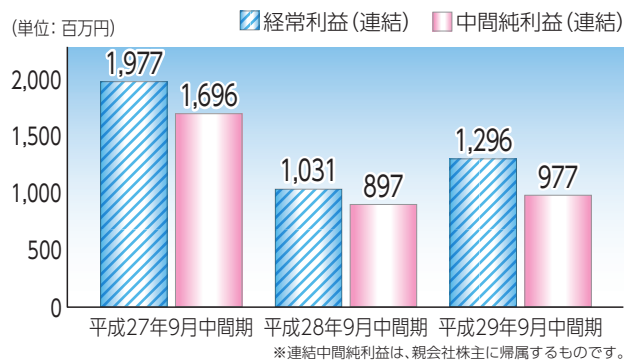
業績ハイライト

©Daito Bank Disclosure

業績ハイライト

損益の状況(連結)

- ・経常収益は、預り資産販売の増加等により役務取引等収益は増加したものの、有価証券利息配当金の減少等による資金運用収益の減少を主因に、69億37百万円(前年同期比4億16百万円減少)となりました。
- ・経常費用は、勘定系システムの移行に係る一時費用の減少や経費削減効果に伴う物件費の減少、及び税金費用の減少等による営業経費の減少を主因に、56億41百万円(前年同期比6億81百万円減少)となりました。
- ・これらの結果、経常利益は12億96百万円(前年同期比2億64百万円増加)、親会社株主に帰属する中間純利益は9億77百万円(前年同期比80百万円増加)となりました。

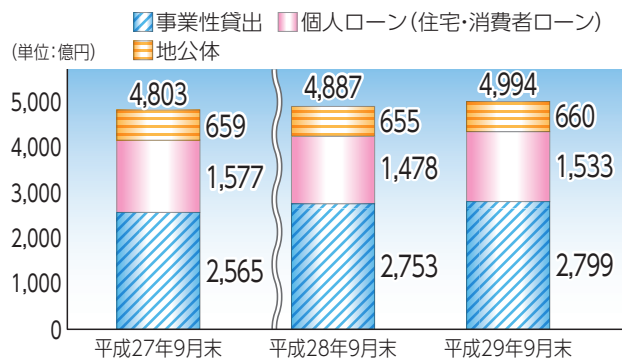


貸出金の状況(単体)

貸出金残高は、住宅ローンを中心とする個人向け貸出及び法人向け貸出が増加したことなどから、平成28年9月末比106億円増加して4,994億円となりました。

※勘定系システムの更改に伴い平成28年度より貸出金に係る区分表示及び定義について一部変更を行っております。

【新定義】[住宅ローン]……アパートローンを除外
[消費者ローン]……従来含めていなかった消費性資金(総合口座貸越等)を追加

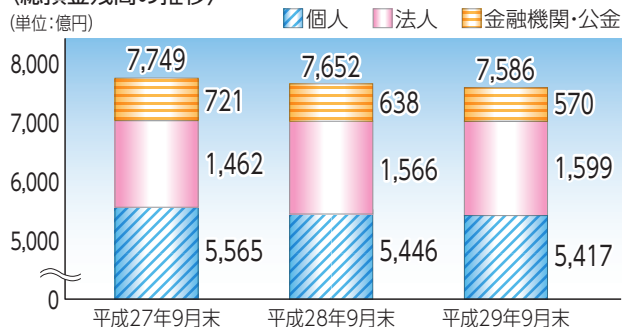


総預金・預り資産の状況(単体)

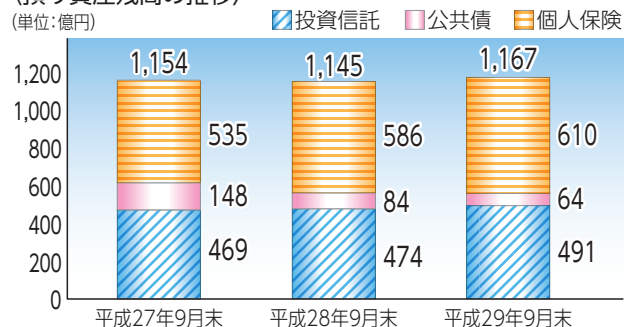
総預金残高は、公金預金及び個人預金が減少したことから、平成28年9月末比65億円減少して7,586億円となりました。

預り資産残高は、平成28年9月末比21億円増加して1,167億円となりました。

〈総預金残高の推移〉



〈預り資産残高の推移〉



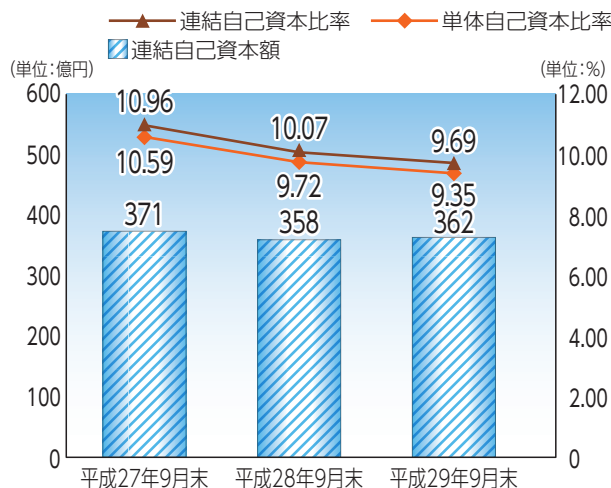
業績ハイライト

©Daito Bank Disclosure

業績ハイライト

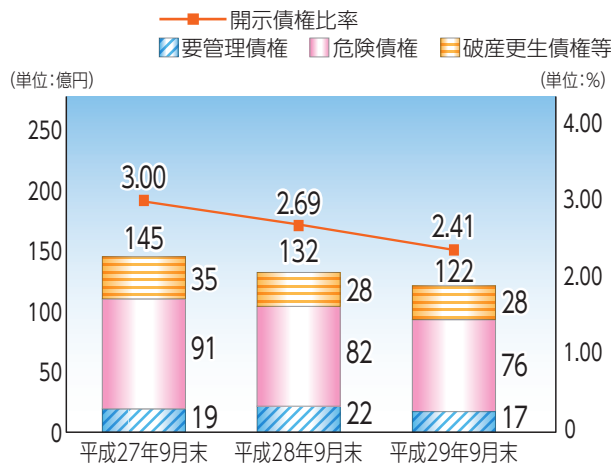
自己資本比率

貸出金の増加に伴い、リスク・アセットが増加したことから、自己資本比率(国内基準)は、連結で9.69%(平成28年9月末比0.38ポイント低下)、単体で9.35%(同0.37ポイント低下)となりました。



開示債権比率(単体)

金融再生法による開示債権比率(単体)は、お取引先さまの経営支援に引き続き積極的に取り組んだことなどから、平成28年9月末比0.28ポイント低下して2.41%となりました。



※単位未満を四捨五入して表示しております。

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及びこれらに準ずる債権

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収及び利息の受取りができない可能性の高い債権

要管理債権

3カ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権